

林大の風

第9号

高知県立林業大学校

西又演習林の紹介

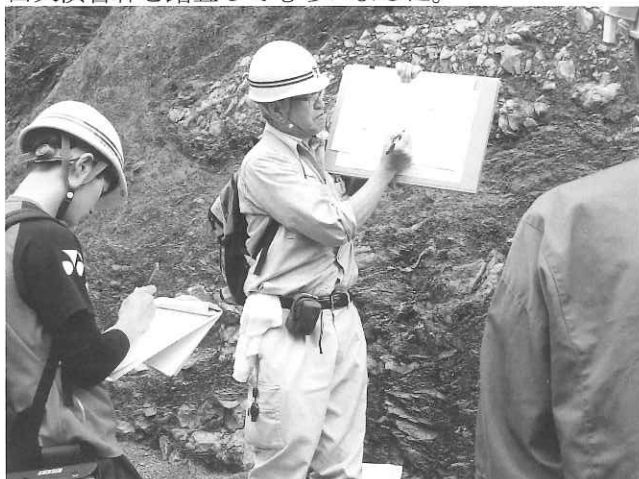
本校は香美市の林道西又河野線沿いに位置する、西又県行造林地と西ヶ仁尾公社造林地を、県、森林整備公社、土地所有者である高知県森林組合連合会のご協力をいただき、演習林として利用しています。

西又県行造林地については、平成30年度から香美森林組合が県営林整備事業として搬出間伐及び作業道開設を実施しており、活気に溢れた現場となっています。

現在研修生が実習を行っている西ヶ仁尾公社造林地は、面積約18ha、26年生のヒノキ主体の林分で、胸高直径は20cm未満の立木が多いことに加え地形もなだらかな箇所が多く、基礎課程の研修生が初めて現場に入るにはぴったりの箇所といえます。

令和3年度からは西又県行造林地に入る予定となっていますが、施業候補地としては約50ha、66～88年生のスギ及びヒノキが混在する林分であり、これまで伐倒していた立木よりは大きく、研修生にとってもやり応えがあると思います。

さらに、専攻課程の講義の一環として株式会社四国トライの技術部長吉村典宏さんに来ていただき、西又演習林を踏査してもらいました。



▶西又演習林の地形・地質について説明する吉村さん

西又演習林は地質学的に見ても非常にバリエーションに富んでおり、岩質、断層などの地形の変化点、地滑りの痕跡など、作業道を開設する際に注意が必要となる危険箇所等を学ぶことのできる良いフィールドであるとの評価でした。

標高が1,000m近いことから、これからの季節は雪に悩まされることも多いですが、厳しい環境下での体調管理や適切な服装の着用なども同時に学べる環境であると、プラスに捉えています。

鹿、鹿、鹿

～演習林でもシカの皮剥被害～



▶鹿の子模様の綺麗なシカ

今年6月、専攻課程の「鳥獣被害対策」講義として西又演習林に定点カメラを6台仕掛けました。

シカの背丈が届く範囲にできるディアライン（鹿摂食線）や足跡、糞などの痕跡を探し、「クマが映り込んでいたらどうしよう。」などと言いながら、カメラを設置しました。

これまで、シカの糞や皮剥の痕跡など多数確認していましたので、ある程度はいるだろうという予想のもと、10月の講義で定点カメラを回収し、確認したところ、多くのシカが写り込んでいました。立派な角を持った雄も複数回写っており、通りすがりでは無く、演習林一帯でハーレムを形成しているということでした。

残念ながら(?)クマは写っていませんでしたが、なんと、カモシカが写っていました。

「今年の課題研究は演習林のシカの駆除！」と意気込む学生も現れるなど、充実した講義となりました。



▶1回だけ写ったカモシカ